

第2章 基本施策体系

この計画は、「一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会の形成」、「持続的発展が可能な地域社会の形成」を県づくりの理念としています。

この理念は、「人間・人格・人権の尊重」、「自然と共生する環境負荷の少ない社会の形成」、そして「独自の歴史・文化・個性を尊重した地域づくり」を基本的な考え方としています。

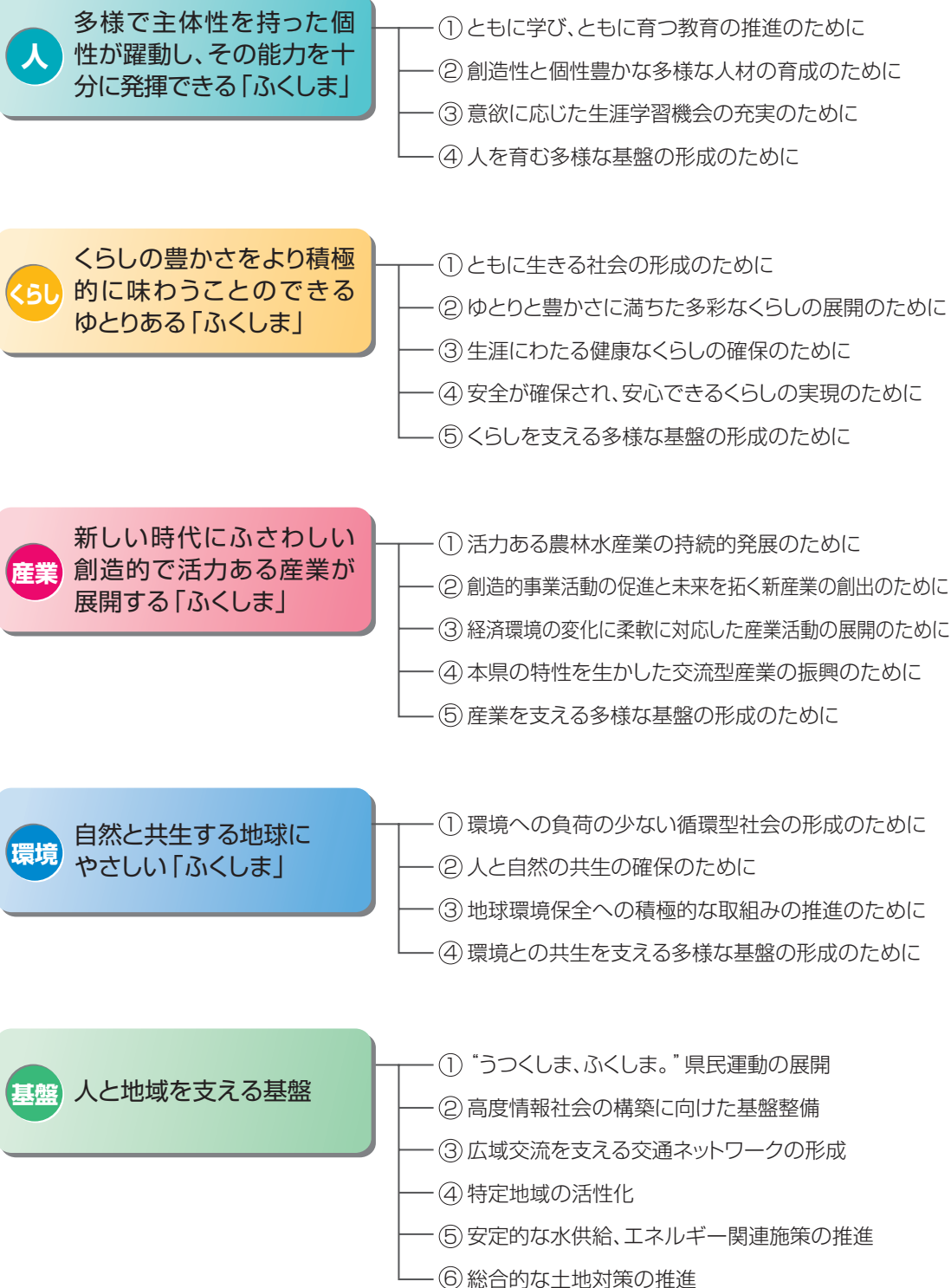
「第1編 基本構想」では、このような考え方に基づく社会としての21世紀のふくしまのイメージを、まず「人」の側面から描くとともに、「人」をとりまく「くらし」と「産業」、そして今後さらに重要性を増す「環境」の側面から描いています。

県の施策を総合的・体系的に示すこの基本施策体系では、基本構想の描くこれらの将来イメージの実現を施策体系の大項目の目標として掲げるとともに、人と地域を支える「基盤」の整備について体系的に示しています。

〔基本施策体系〕



基本施策の体系（大一中項目）



第1節 多様で主体性を持った個性が躍動し、 その能力を十分に発揮できる「ふくしま」

今後、本格的な少子・高齢社会の到来など、これまで経験したことのない新しい時代を迎える中、本県を担う人材の育成と県民一人ひとりの能力が発揮できる環境づくりは、これまで以上に重要な課題です。

また、県づくりの理念として位置付けられている「人間・人格・人権の尊重」は、世界にも通用する普遍的な価値観を持った新しい人づくりを進めることだと考えることができます。

このため、「多様で主体性を持った個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる『ふくしま』」をめざして、人それ自身をどう育てていくのかという観点から、人づくりの根幹をなす教育に関する施策、21世紀の本県を担う人材育成のための施策、生涯にわたる自己開発支援や知識欲求等への対応のための施策及びこれらに関連するさまざまな基盤づくりのための施策の4つに体系化し、総合的に取り組んでいきます。

- 1 ともに学び、ともに育つ教育の推進のために
- 2 創造性と個性豊かな多様な人材の育成のために
- 3 意欲に応じた生涯学習機会の充実のために
- 4 人を育む多様な基盤の形成のために



ともに学び、ともに育つ教育の推進のために

すべての子どもたちのよりよい成長をめざし、生きる力や心豊かな人間性の育成、個性の伸長、児童生徒の心のケア、障害のある子どもたちの自立・社会参加の支援、社会変化への的確な対応など学校教育の充実を図ります。

創造性と個性豊かな多様な人材の育成のために

社会経済情勢の変化に柔軟に適応し、新しい時代を切り拓いていける人材の育成をめざし、青少年の健全育成、心を重視する幼児教育の充実、創造性豊かな人材の育成、全地球的な広い視野を持って活動できる人材の育成などを図ります。

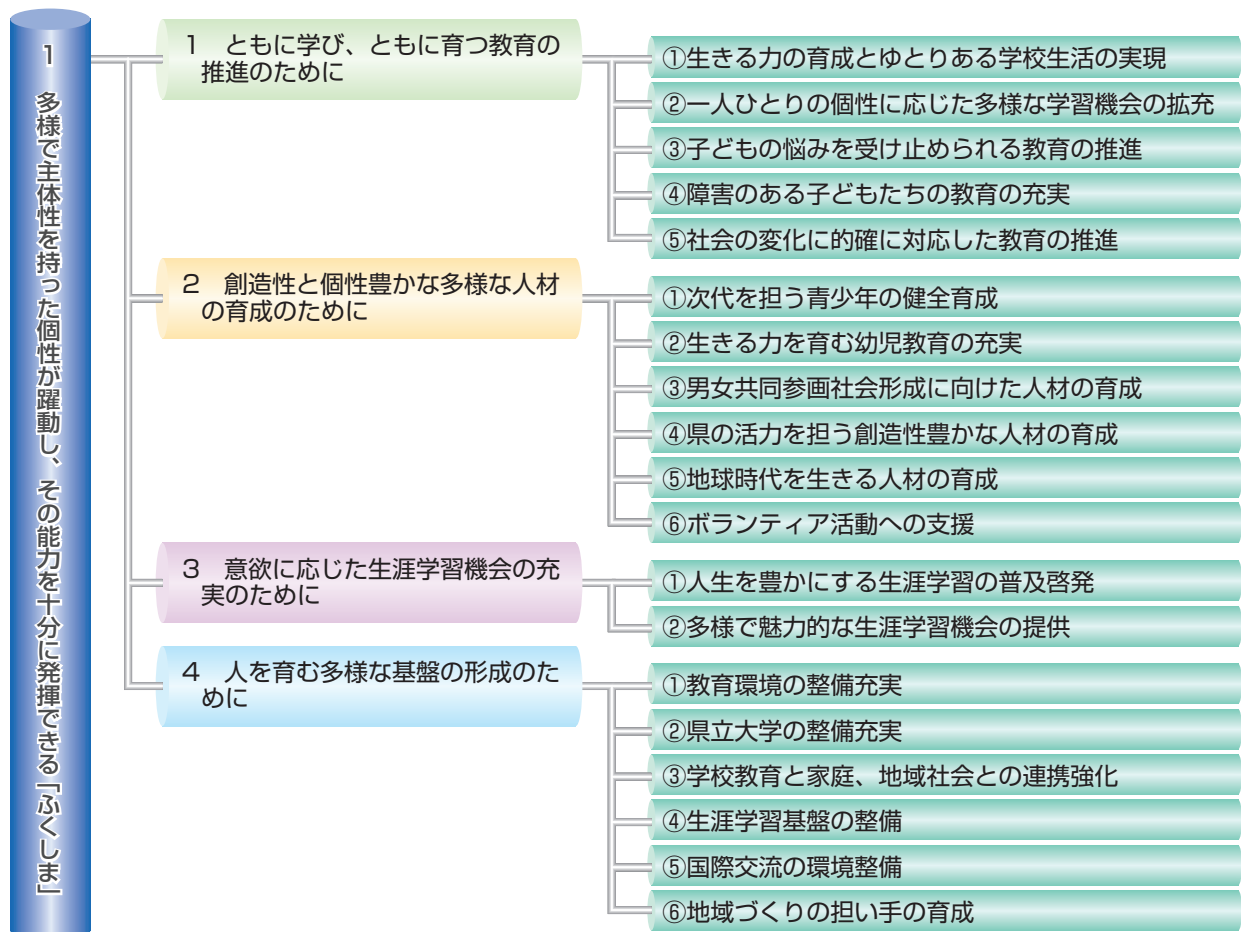
意欲に応じた生涯学習機会の充実のために

自由時間の増大などゆとりある生活が実現される中で、県民が人生をより豊かなものとしていくための生涯学習社会の形成をめざし、多様で参加しやすい学習機会の充実を図ります。

人を育む多様な基盤の形成のために

人づくりを着実に推進していくにあたっての基礎となるさまざまな環境の整備をめざし、各種施設の整備やソフト面での基盤づくりを進めます。

施策体系



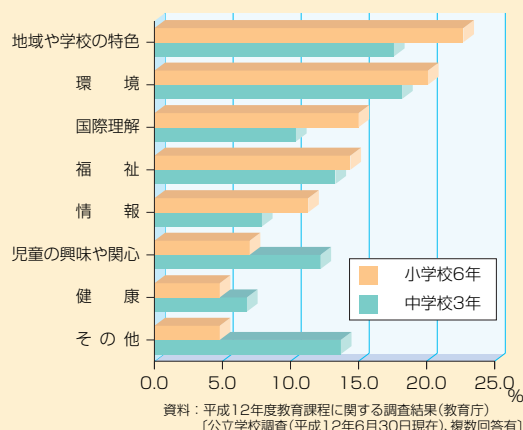


1-1-① 生きる力の育成とゆとりある学校生活の実現

施策の基本方向

変化の激しい社会において、子どもたちが他人と協調しつつ自律的に社会生活を送れるよう、児童生徒の生きる力を育む学校教育を推進するとともに、規範意識や他人を思いやる心など心豊かな人間を育むゆとりある学校生活の実現に努めます。

総合的な学習の時間の取組み状況（平成12年度）



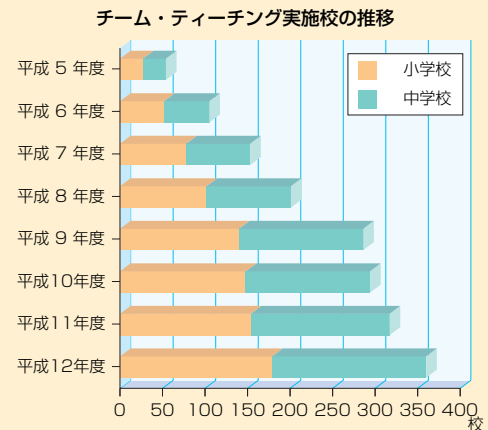
施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
教育課程の改善・充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校の創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成に努めます。 ◆自ら学び、自ら考える力を育成するため、子どもの発達段階に応じ、総合的な学習の時間を利用するなどして、体験的な学習・問題解決的な学習の充実にも努めます。
学力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校の主体的な教育活動の充実を図り、児童生徒一人ひとりの基礎学力の定着と、学力の一層の向上に努めます。 ◆個性に応じた多様な進路希望の実現のため、チーム・ティーチングの拡充や教員の指導力向上等を図ります。 ◆小・中・高等学校の学習指導における連携を強化します。
豊かな人間性を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域の人材の協力や保護者の助言も得ながら、思いやりの心など豊かな人間性を育む道徳教育の充実を図ります。 ◆生き物とのふれあいを通して命の大切さを実感させる教育を推進します。 ◆家庭の在り方を問い直し、家族の絆を深める教育を推進します。 ◆異年齢集団や障害のある子どもたちとのふれあいの中で、児童生徒に豊かで多彩な体験の機会を与える教育を推進します。 ◆豊かな人間性を育み、他人への思いやりなどのかん養を図るため、小・中・高等学校の連携を図ります。 ◆児童生徒に対する食生活の正しい理解と望ましい食習慣の形成に関する指導の充実にも努めます。また、学校給食の一層の充実を図ります。
健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童生徒の性や心の健康問題、薬物乱用、生活習慣病などの新たな課題に対応するため、学校と地域等が一体となって総合的な健康教育推進体制の整備に努めます。
学校体育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯にわたって積極的に運動に親しむ資質や能力を育成するとともに、基礎的な体力の向上に努めます。
部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆外部指導者の活用等により、生徒の自主性を尊重した運動部活動の一層の充実にも努めます。 ◆地域の人材を幅広く活用するなどして、文化部活動の一層の充実にも努めます。
完全学校週5日制への対応	<ul style="list-style-type: none"> ◆完全学校週5日制を一つの契機として、ゆとりある学校生活の実現のために教育内容を厳選するとともに、心豊かな人間を育成するため、自然体験・社会体験の機会の充実に努めます。

1-1-② 一人ひとりの個性に応じた多様な学習機会の拡充

施策の基本方向

児童生徒の興味・関心等が多様化する中で、一人ひとりの個性をかけがえのないものとして尊重し、その伸長を図ることが課題となっており、一人ひとりの適性や発達に応じて個性や能力を伸ばしていけるよう、多様な学習機会の拡充を図ります。



施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
個性に応じた進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童生徒の個性を生かした進路実現のために、進路情報の収集・活用等による有効な指導法の確立や進路相談の充実等を図るとともに、小・中・高一貫した計画的・組織的な進路指導を推進します。 また、児童生徒の主体的な進路選択能力を高めるため、勤労体験学習や就業体験の機会の一層の拡充に努めます。 ◆障害のある生徒が自分の意志と能力を生かして多様な進路が選択できるよう、県立盲・聾・養護学校高等部における進路指導の充実を図ります。
特色ある学校教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆市町村教育委員会が地域の特性や住民のニーズを踏まえて主体的に展開する特色ある小・中学校教育を支援します。 ◆一人ひとりの個性・能力をゆとりある教育の中で育むことをめざすとともに、児童生徒や保護者の選択機会の拡大を図るため、中高一貫教育の導入について検討します。 ◆高等学校においては、生徒一人ひとりの個性の伸長を図るため、単位制や総合学科をはじめとして各学校の教育課程を充実させ、地域社会との連携を図りながら特色ある主体的、創造的な教育を推進します。 ◆専門高校で学ぶ生徒が、将来、社会のさまざまな分野でその専門性を生かして活躍できるよう、基礎・基本の習得と併せ、先端的な技術を学べるよう教育内容の質的な充実を図ります。 ◆新しいタイプの定時制単位制高校を整備するなど、定時制・通信制教育の充実を図ります。 ◆それぞれの建学の精神に基づいて特色ある教育を実施している私立学校を支援します。
専修・各種学校の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒や保護者の学校教育への多様なニーズに的確に対応するため、専修・各種学校の教育内容の充実と、質の高い魅力ある学校づくりを支援します。
高等教育機関の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆福島大学の総合化をめざすとともに、本県産業の高度化と頭脳集積を促進するため、県内各層との連携の下、環境・福祉等学際的な領域への教育・研究を進める自然科学系学部の設置に向け、積極的に国に働きかけます。また、大学の知的財産を生かした地域産業等へのさまざまな支援活動を促進する地域創造支援センター（仮称）の設置に向けた取組みを支援します。



福島大学のキャンパス



第1節 多様で主体性を持った個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる「ふくしま」

1 ともに学び、ともに育つ教育の推進のために

項 目	施 策 の 方 向
高等教育機関の充実（つづき）	<ul style="list-style-type: none">◆国立福島工業高等専門学校の専攻科設置に向けた取組みを支援し、先端技術や異業種技術分野との融合化などに対応できる高度な専門的知識と豊かな創造力を持った人材の育成を促進します。◆大学等の高等教育機関の誘致や学部・学科等開設に向けた地域の主体的な取組みについては、地域や時代のニーズにこたえ、就学機会の拡充や人材育成、地域の活性化を図るため、その取組みを促進します。◆既存大学等については、新しい時代の要請にこたえられるよう、単位互換の推進など高等教育機関相互の連携を図り、機能の整備拡充を促進します。



チーム・ティーチングの授業



楽しい給食の時間



地元のお年寄りから学ぶ総合的な学習の時間



英語指導助手による授業



専門高校での先端的技術の学習

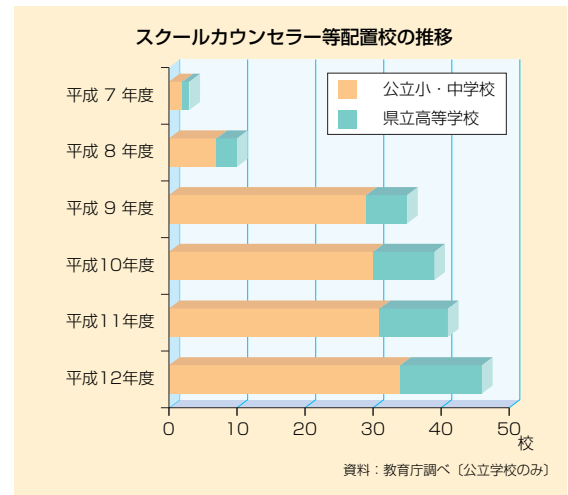


総合学科高校での学習（ディベート）

1-1-③ 子どもの悩みを受け止められる教育の推進

施策の基本方向

多様化する子どもたちの悩みをしっかりと受け止めるため、児童生徒とのより強い信頼関係を形づくりながら相談体制や生徒指導などの充実に努めます。



施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
悩みを抱える児童生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> ◆いじめや不登校、心の悩みなど、児童生徒の心のケアを巡る多様な実態に応じて適切に対応できるスクールカウンセラーなどの相談体制の充実に努めます。 ◆いじめや不登校等の未然防止や解決を図るため、学校、家庭、地域が一体となって指導に当たるとともに、学校と福祉、保健、警察等の関係機関との連携を強化し、問題の早期発見、早期解決に努めます。 ◆不登校児童生徒のための適応指導教室における指導の充実に努めるとともに、学校復帰のための支援方策について調査研究に基づき実践的な取組みを進めます。



ハートウォーム出前講座



高校の相談室



あいさつ運動



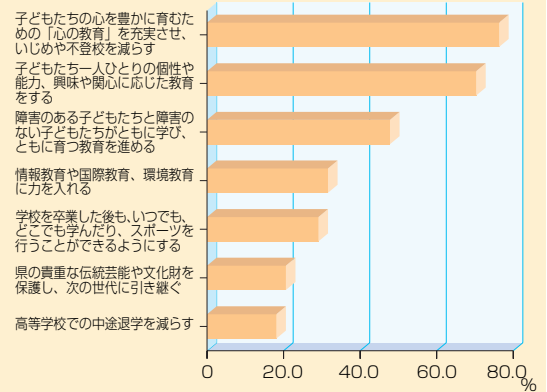
1-1-④ 障害のある子どもたちの教育の充実

施策の基本方向

障害のある子どもたちが、その能力を最大限に発揮して主体的に生きていく力を身につけられるよう、適正な就学指導の推進と就学機会の拡充を図るとともに、保健・医療・福祉と連携しながら一人ひとりの能力に配慮した教育の充実を図り、自立・社会参加の支援に努めます。

ともに生きる社会の実現に向けて、障害のある子どもとない子どもが地域の中でともに学ぶ教育を推進します。

県の教育委員会が力を入れるべきこと(上位7項目)



資料：平成11年度県政世論調査結果(広報広聴課)〔平成11年7月調査、複数回答有〕

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
一人ひとりの能力に配慮した教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆主体的に生きる力を身につけることができるよう、適正な就学指導に基づき、個に応じた指導内容・方法のより一層の充実を図ります。 ◆早期から教育を受ける機会を拡充するため、幼稚部教育の充実と幼稚園・保育所への受入れ促進を図ります。 ◆身近で教育を受けられる環境を整えるため、盲・聾・養護学校の複合化等による、知的障害養護学校への肢体不自由児の受入れや養護学校分教室の設置等について検討を進めます。 ◆事業所や福祉作業所等における実習機会の拡充や職場開拓に努めるなど、それぞれの能力に応じて自立・社会参加できるよう支援体制の整備を進めます。
保健・医療・福祉との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆保健・医療・福祉関係機関と連携した早期教育相談体制の充実を図ります。 ◆障害の重度化・重複化に対応するため、盲・聾・養護学校への保健医療スタッフ配置や医療器具の整備など、医療的ケア支援体制の充実を図ります。 ◆教育・医療・福祉などの地域のさまざまな機能を活用し、療育訓練を身近な地域で受けられるようにします。 ◆養護教育センターと県心身障害児総合療育センターの機能の充実と連携の強化を図り、教育と医療・福祉が一体となった支援体制を拡充します。
地域に根ざし、地域の中でともに学ぶ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆ノーマライゼーションの理念を踏まえ、障害のある子どもとない子どものより一層の相互理解を促進するため、学校や地域においてともに学ぶ機会の拡充に努めます。 ◆障害のある子どもたちが多くの人々と出会い、ふれあい、自然体験や社会体験を得る機会の拡充に努めます。



聾学校と市民オーケストラの交流



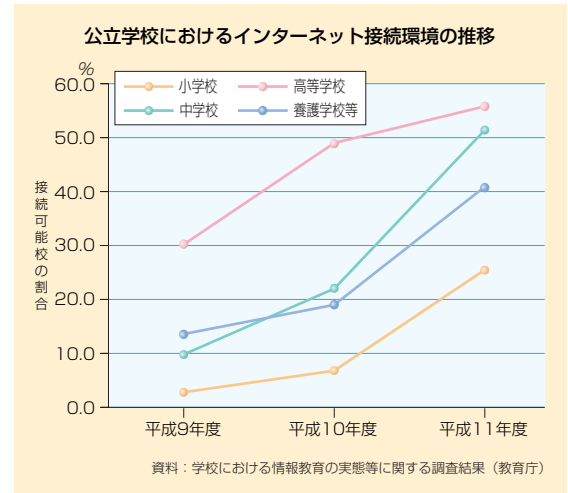
障害のある子どもとない子どもがともに学ぶ教育

1-1-⑤ 社会の変化に的確に対応した教育の推進

施策の基本方向

高度情報化、国際化、科学技術の発展、環境問題の深刻化など、社会の急激な変化の中で、児童生徒が自らの力でたくましく未来を切り拓いていけるよう、社会の変化に的確に対応した教育を推進します。

性別、年齢、障害の有無などにかかわらず、誰もがともに生きる社会の実現を図るためには、教育の果たす役割が極めて重要であるため、学校、地域、関係機関が連携して、人権の尊重、男女平等、福祉などに関する教育を推進します。



施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
人権を尊重する教育の推進	◆学校教育活動全体を通じて人権尊重の理念についての理解を深める教育を推進します。
情報教育の推進	◆情報を正しく理解し活用する能力や、情報モラル等の情報社会に参画する態度を育成する教育を推進します。 ◆会津大学や高等学校などにおいて、情報通信ネットワークを含むコンピュータの知識・技術を有する人材を育成します。
国際理解教育の推進	◆児童生徒の異文化への理解を深め、多角的な価値観を尊重する態度を育成します。 ◆外国人との実践的コミュニケーション能力を高めるための外国語教育の充実を図ります。
科学技術教育の推進	◆児童生徒の能力・適性・興味・関心等に応じ、問題解決的な学習や体験的学習を通して、科学的なものの見方や考え方などの豊かな科学的素養を育成する教育を推進します。 ◆豊かな創造性を培い、科学技術への正しい理解を普及するため、子どもたちが楽しみながら科学技術にふれあうことのできる機会づくりに努めます。
環境・エネルギー教育の推進	◆環境やエネルギーへの理解を深め、環境保全に向けて主体的・実践的に行動する資質・能力を育成するため、環境や自然を大切にする教育の推進に努めます。
男女平等教育の推進	◆男女を問わず児童生徒が自己の能力を十分に発揮できるよう、あらゆる教育活動を通してこれからの男女共同参画社会に生きる感性や意識の育成に努めます。 ◆県内すべての県立高等学校の男女共学化の実施に努め、男女平等に基づく教育の実現をめざします。
福祉教育の推進	◆福祉に関する学習の充実を図るため、教材や設備等の充実など教育環境の整備に努めます。 ◆高等学校において平成15年度から導入される教科「福祉」について、担当教員の養成と効果的な指導方法の研究に努め、教育内容の充実を図ります。 ◆児童生徒が福祉ボランティア活動を体験できる機会づくりに努めます。 ◆福祉教育の円滑な推進のため、福祉関係者と教育関係者の交流の場を設けるなど、相互の連携強化を図ります。



高校での福祉の実習



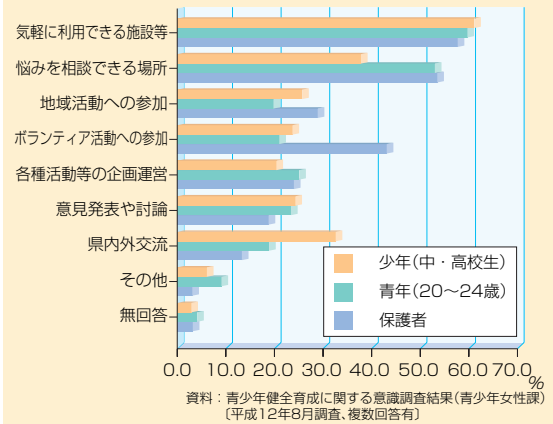
1-2-① 次代を担う青少年の健全育成

施策の基本方向

青少年を取り巻く状況が少子化や地域社会の変化等により大きく変化する中で、明日の「ふくしま」を担う青少年の健全育成を図ることが大きな課題となっています。

このため、社会全体で青少年の健全な発達を支えていくことを基本に、青少年の人権と主体性を尊重しつつ、大人の意識を含めた社会環境の改善、青少年の自主性や社会性を育む多様な活動機会の充実、青少年の権利を尊重した総合的な保護支援体制の整備を図るとともに、家庭、学校、職場、地域社会が一体となった県民運動を展開します。

青少年の健全育成のために必要だと思うもの



施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
社会環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 青少年の手本である大人一人ひとりが自ら姿勢を正す意識改革を進めるとともに、社会全体で青少年育成を担うという気運を醸成します。 ◆ 青少年の自己主張を認める考えを持つよう大人の意識改革を進めながら、家庭、学校、地域社会の開かれた関係を構築し、青少年が社会性を培いつつ、将来に夢を持って自己実現できるよう支援します。 ◆ 青少年の健全育成を阻害する社会環境から青少年を守るため、地域の理解を得ながら浄化活動を推進します。
多様な青少年育成活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 青少年は地域社会から育むという視点に立って、地域の実情に即した多様な社会参加活動を推進します。 ◆ 緑の少年団などの自然体験活動や国際交流・協力活動など多様な地域活動、ボランティア活動等の機会を青少年に提供します。 ◆ 青少年育成団体に対する指導や支援を行うとともに、青少年リーダーに海外との交流の場を積極的に提供するなど指導者の養成を図ります。 ◆ 青少年育成指導者の人材バンクの整備や、青少年の体験活動やサークル等についての情報の収集・提供などを行うネットワークを整備します。
総合的な保護支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 青少年問題に関する総合的な相談機能の整備、充実を図るとともに、関係機関相互のネットワークを強化します。 ◆ 非行につながる問題行動等に早期かつ適切に対応するため、調査研究や関係者間での情報の共有化、県民に対する情報提供の充実等に努めるとともに、少年サポートセンターや少年センターなどを中心に非行防止と保護支援のための体制を整備します。
青少年健全育成県民運動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家庭、学校、職場、地域社会が連携し、その役割に応じた機能を十分発揮していくとともに、福島県青少年育成県民会議を中心として県民総ぐるみの運動を展開します。



青少年の健全育成

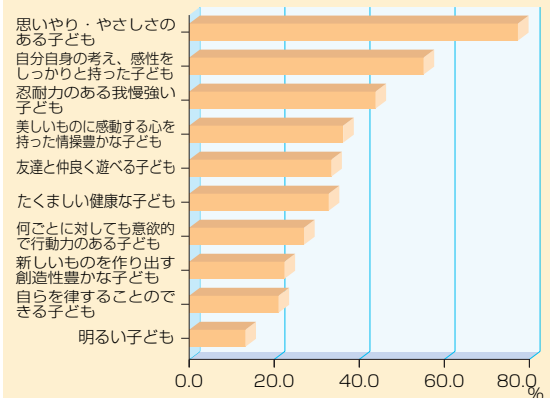
1-2-② 生きる力を育む幼児教育の充実

施策の基本方向

幼児期は、生涯にわたる人間としての健全な発達や社会対応能力を培う上で基礎となる重要な時期であり、子どもたちが豊かな人間性に根ざした生きる力を身に付けていけるようにすることが大切です。

このため、幼児への家庭教育を担う親自身に対する教育及び幼稚園、保育所における教育内容の充実を図るとともに、地域社会との連携や自然体験機会の活用を図り、幼児教育の充実を図ります。

育って欲しいと思う子どもの姿(上位10項目)



資料：平成11年度県政世論調査結果(広報広聴課)(平成11年7月調査、複数回答有)

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
親に対する教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 幼児の教育についての親の視野を広げ、家庭でのしつけを見つめなおす契機にするとともに、親同士の親交の場づくりとするため、幼稚園、保育所における保護者の保育参加体験機会の拡充に努めます。 ◆ 乳幼児健診時に公民館の両親学級や幼児教育相談を実施するなど、市町村における母子保健と家庭教育の連携強化を促進します。 ◆ 幼稚園等での集団生活の中で見受けられる家庭でのしつけの不十分な点についてスタッフが親に連絡したり相談に乗ったりするなど幼稚園等と家庭との連携の強化を図ります。 ◆ 市町村公民館の両親学級等を活用し、責任感や自立心の芽生えを促し、礼儀などを身につけさせるしつけの在り方等幼児期における基本的な家庭教育の進め方についての学習機会の充実を図ります。 ◆ 中高校生に対する保育所等での育児体験機会の提供など、将来親となる世代への教育の充実強化に努めます。
幼稚園、保育所における教育内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆ さまざまな遊びや体験を通じて、他人を思いやる心、生き物を大切にする心を育て、人との関わりかたや道徳性の芽生えなどを重視した幼児教育を進めます。 ◆ 地域住民の協力を得て、幼児を地域の行事や身近なボランティア活動等へ積極的に参加させる機会の拡充を図ります。 ◆ 教育内容についての情報交換や合同研修などを通じ、幼稚園、保育所、小学校の連携を強化します。 ◆ 合築等による幼稚園と保育所の施設の共用化を進めるなど、異年齢の子供たちが互いにふれあうことのできる条件整備を図ります。
地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 他人の子でも悪いことはきちんと注意するなど、地域全体で幼児を教育していく意識の醸成に努めます。
自然体験機会の活用	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 幼児を自然の中でのびのび育てるとともに、親離れ、子離れを進める機会として、親元を離れた集団生活を体験させる幼児キャンプの普及を図ります。 ◆ 豊かな自然と多様な施設を活用し、県内市町村が連携した本県独自の幼児キャンプシステムの構築を図ります。



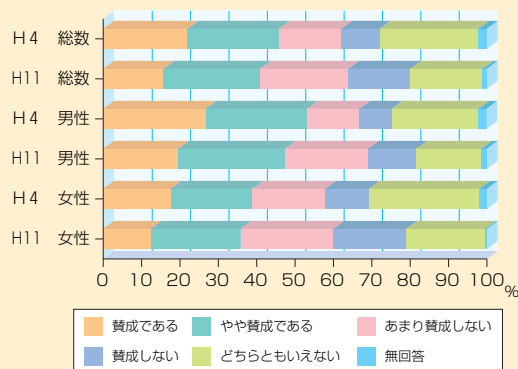
1-2-③ 男女共同参画社会形成に向けた人材の育成

施策の基本方向

男女が互いに対等な立場で性別にとらわれず、共に助け合い・理解し合いながら、それぞれが自分らしく生きることができる社会を実現するためには、男性と女性のパートナーシップの下、人権尊重・男女平等・自立の意識を持って行動や生き方を選択できる人材を育成することが重要です。

このため、積極的改善措置の一環として、女性の「エンパワメント（社会的・経済的に力を付けていくこと。）」を支援します。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について



資料：男女共同参画に関する意識調査結果（青少年女性課）
（平成4年度及び11年度実施）

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
意識改革の推進	◆女性自らが社会の重要な部分を担っていくという意識を持ち、自己の能力を高める意欲を持つことができるような社会をめざして、県民の意識改革を推進します。
教育機会等の充実	◆社会のあらゆる分野に参画し、責任を担っていける女性の人材を育成するため、福島県男女共生センターを核として教育機会や自己啓発機会等の充実を図ります。また、男女共同参画社会実現のため、男性に対する教育機会等の充実を図ります。
能力開発等の推進	◆女性の職業能力の開発を支援するとともに、資格や特技を生かした女性の社会貢献を支援します。
リーダー養成	◆さまざまな分野において、国際的視野を持ち、地域で行動できる女性リーダーが育成されるよう支援するとともに、そうした女性が取り組む社会的実践活動を支援します。 ◆社会のさまざまな分野で活躍している女性等の相互交流が拡大されるよう、ネットワークの構築などの取組みを支援します。



3県女性サミットワークショップ



男の料理教室

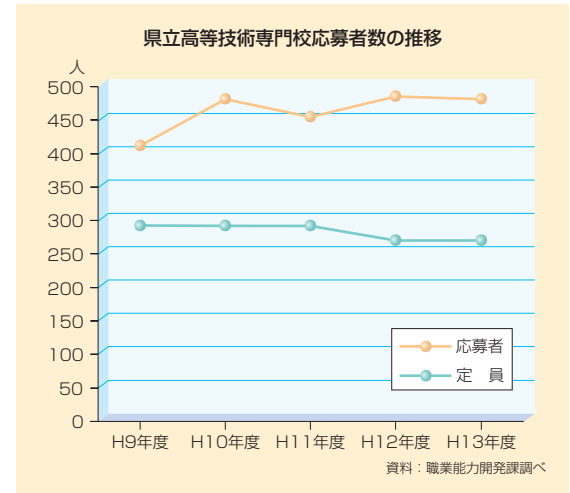


うつくしま県民の翼
男女共同参画コース

1-2-④ 県の活力を担う創造性豊かな人材の育成

施策の基本方向

経済産業構造の変化に的確に対応した活力ある経済社会の実現に向けて、その担い手となる創造性豊かな人材の育成を図るため、産業教育の充実や職業意識の向上に努めるとともに、職務遂行に必要な知識や技術の高度化・専門化に対応した職業能力の開発・向上のための条件整備に努めます。



施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
産業教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆大学や専修学校、高等学校等において技術革新や産業の動向等に適切に対応した産業教育を促進します。 ◆起業家の育成や企業内での創造的な事業活動の展開を支援するため、高等教育機関等での創業教育を促進します。 ◆豊富な経験と知識・技術を有する企業退職者を活用するなど県立高校における教育内容の改善を図ります。
職業意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ◆大学や専修学校、高等学校等におけるインターンシップ（就業体験）の充実を図るとともに、企業が行うインターンシップを支援します。 ◆次代を担う子どもたちに対して、義務教育段階から、さまざまな体験活動を組み合わせた職業観・勤労観の育成教育を行い、職業に対する意識の醸成を図ります。
職業能力の開発・向上	<ul style="list-style-type: none"> ◆県立高等技術専門学校等の教育訓練内容や設備の充実を図るとともに、大学院を含む高等教育機関への社会人の受入れ拡大や履修制度の弾力化などを促進します。また、より高度な職業能力開発機能の整備を検討します。 ◆県立大学等における社会人に対する講習会・公開講座等の内容の充実を図るとともに、企業からの研究者・技術者の受入れに努めます。 ◆産業人を対象とした各種研修の充実を図るほか、各種産業団体等が実施するさまざまな人材育成活動を支援します。 ◆リカレント教育の推進について幅広く普及啓発を行うとともに、高等教育機関、職業能力開発機関、民間教育機関などの連携・協力のための条件整備に努めます。 ◆企業内教育の充実等企業側における条件整備について関係団体に積極的に働きかけます。



高校生のインターンシップ
(電気配線)



高校生のインターンシップ(保育)



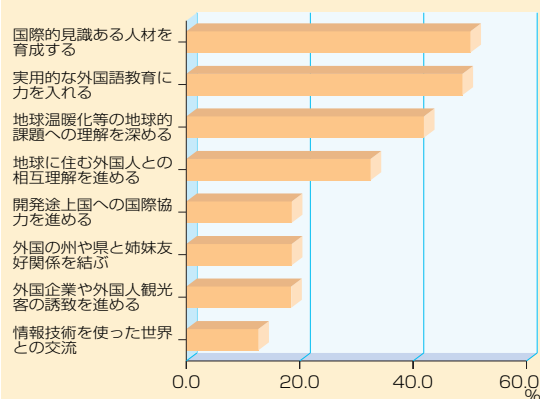
1-2-⑤ 地球時代を生きる人材の育成

施策の基本方向

大交流時代を迎え、地域や企業が直接世界と交流する機会が増大し、また、環境問題のように地球的規模での協調した取組みが求められる課題も出てきていることから、全地球的な広い視野を持って活動できる人材の育成が求められています。

このため、地球時代にふさわしい国際交流や国際協力を推進していきます。

国際化に対応して県がなすべきこと



資料：地域政策情報(時事通信社)(平成12年7月県内調査、複数回答有)

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
県民の国際理解の促進	◆学校における国際理解教育を推進するとともに、県民の国際理解を深めるため、海外情報や海外派遣研修機会の提供に努めます。
世界との対話能力の向上	◆市町村の語学指導助手（JET青年）の活用等による語学力の向上やインターネット等による情報受発信能力の向上を通じ、世界の人々と自在に対話することができる能力の向上を図ります。
国際交流の推進	◆世界の六大州それぞれと具体的なテーマに即した交流を進めるとともに、在住外国人など地域の人材を活用し、市町村や民間団体等と連携しながら、県民と外国人留学生等との交流など多彩な国際交流機会の提供に努めます。 ◆県立大学における外国人留学生の受入れや海外の大学との学術交流を充実します。
国際協力の推進	◆国際協力事業団（JICA）二本松海外青年協力隊訓練所等と連携しながら、県内の国際協力活動を展開するとともに、国際協力についての県民の意識啓発や参加促進への取組みを推進します。 ◆県内の事業所、民間団体等の協力を得ながら、外国からの技術研修生等の受入れを促進します。 ◆国際協力事業団等との連携の下、県の試験研究機関等への外国人技術研修員の受入れを推進するほか、県職員の派遣による農林業面での海外技術協力や環境保全面での国際協力を推進します。



海外技術協力（農業土木）



国際学術交流会議

1-2-⑥ ボランティア活動への支援

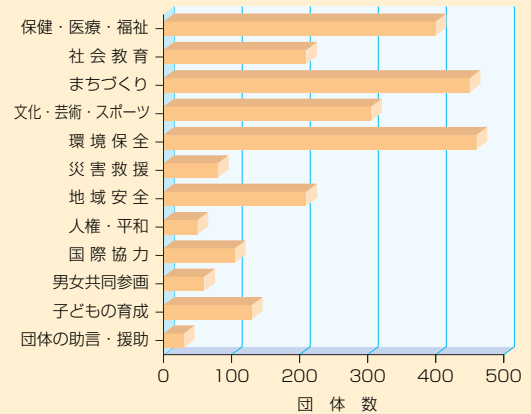
施策の基本方向

福祉、環境保全、道路・河川等の愛護、生涯学習、地域安全、災害救援など県民生活のさまざまな分野で多様な取組みを行っているボランティアは、地域社会への参加や自己実現といった県民の新しいライフスタイルのニーズに対応するものであり、これらを通じて県民の生きがいの実感に資するものです。

また、ボランティア活動は、くらしを重視した創造性と活力ある地域づくりや生涯学習社会の形成を進めていく上で極めて大きな意義を有しています。

このため、ボランティアを「21世紀をともに創るイコールパートナー」として位置付け、自主性・自発性の尊重、社会性・公益性の確保及び新しいパートナーシップの構築を基本的視点として、参加気運の醸成と機会づくり、情報の提供とネットワークづくり及び県民がより参加しやすく、より活動しやすい環境づくりなどボランティアに対する総合的な支援を進めていきます。

本県におけるボランティア団体等の状況



資料：県民生活課調べ（平成12年9月現在、複数分野に計上有、総団体数1487）

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
ボランティア活動への参加気運の醸成と機会づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆参加意識啓発のため、学校教育や社会教育におけるボランティア教育の充実を図るとともに、イベント等の開催により広く県民の参加気運を盛り上げていきます。 ◆専門的知識や技術の習得を含めた学習・研修機会の充実を図るとともに、社会的評価が高まるよう顕彰制度の拡充や活動発表機会の提供などに努めます。
ボランティア情報の提供とネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア情報の収集・提供やボランティアの登録・紹介など、活動の意欲が実際の活動に結び付くような基盤整備を進めます。 ◆インターネット等を活用したボランティアのネットワーク化の促進を図るとともに、ボランティア同士の情報交換や交流機会の提供などボランティア団体の連携体制の整備促進を図ります。
ボランティア活動環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆公共施設や福祉施設等におけるボランティアの受入れ体制の整備を進めるなどボランティア体験と活動の場の提供に努めます。 ◆ボランティア活動の指導者やコーディネーター、アドバイザー等の養成・確保を図るとともに、身近なボランティア活動拠点の整備や活動拠点へのコーディネーターやアドバイザーの配置を促進します。 ◆活動資材の提供などボランティア団体に対する助成の充実を図るとともに、ボランティア保険や休暇・休職制度の普及など活動条件の整備に努めます。 ◆ボランティアの組織化の支援やNPO認証制度の普及を図ります。
ボランティア活動推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆市町村、企業、関係団体等との連携・協働を推進し、行政、関係団体、県民が一体となった推進体制の整備を図ります。



尾瀬のボランティア



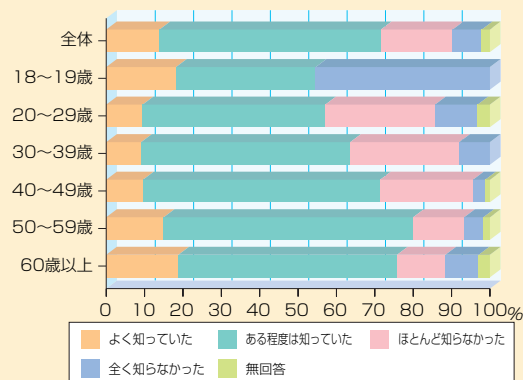
1-3-① 人生を豊かにする生涯学習の普及啓発

施策の基本方向

県民一人ひとりが、生涯のいつでも興味や必要に応じて学ぶことができる生涯学習社会の形成をめざします。

このため、生涯を通じて学習することの意義について県民の理解を得るとともに、自ら学ぶ意欲を喚起するための普及啓発に努めます。

「生涯学習社会」に対する認知について



資料：平成10年度県政世論調査結果（広報広聴課）
（平成10年11月調査）

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
生涯学習推進体制の整備・充実	◆県民の生涯にわたる学習活動が円滑に行われるよう、学校や市町村、関係機関・団体との連携強化に努めます。
生涯学習の普及・啓発	◆県民の学習活動を促進するため、生涯学習の意義や必要性の理解に向けた広報活動を展開します。 ◆学校生活のさまざまな機会を活用して生涯学習の啓発を図ります。
学習情報の提供と相談体制の充実	◆学習者が必要とする情報を迅速・的確に提供するため、生涯学習関連情報の収集に努め、コンピュータやネットワークを活用した情報提供に努めます。 ◆学習者が相談しやすい環境の整備や学習相談員の資質の向上を図り、学習相談体制の充実に努めます。
学習成果の評価と活用の促進	◆学習成果を有効に生かすことのできる場の確保に努めるとともに、その成果を適切に評価するシステムの構築をめざします。



放送大学の面接授業



学社連携・融合フロンティアフォーラム



ふくしまマナビネットのホームページ



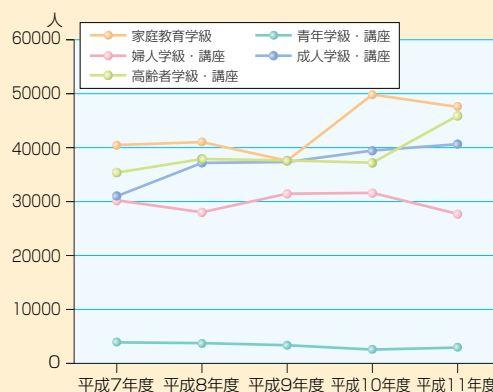
さまざまな機会での生涯学習

1-3-② 多様で魅力的な生涯学習機会の提供

施策の基本方向

県民一人ひとりが、それぞれのライフステージや社会の変化に対応した学習活動に取り組めるよう、広域的な学習機会のネットワークを構築するなど学習環境の整備に努めます。

社会教育関係学級・講座の受講者数の推移



資料：福島県社会教育統計要覧（教育庁）

施策の展開

項 目

施 策 の 方 向

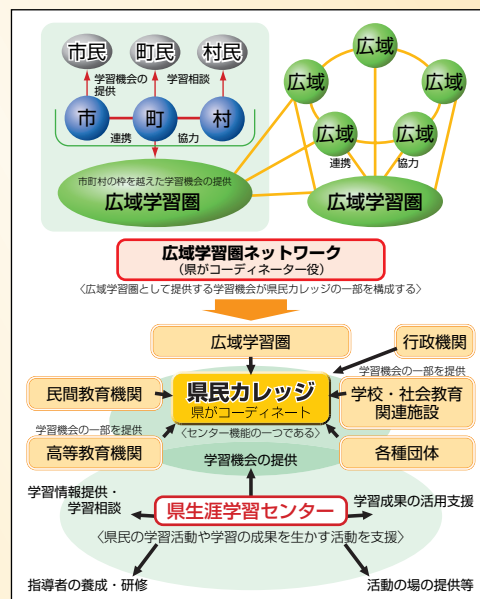
学習機会の拡充

- ◆関係機関との連携を図り、さまざまな学習機会の体系化を図るなど学習機会の充実に努めます。
- ◆高度化する県民の学習ニーズにこたえるため、高等教育機関とのネットワークを図り、高度な学習機会を提供します。
- ◆社会教育施設をはじめあらゆる県立施設において、多様な学習機会の提供を推進します。
- ◆県民のライフステージに応じたさまざまな学習活動の要求にこたえるため、青少年・成人・高齢者の学習活動の充実と学習環境の条件整備に努めます。
- ◆世代間交流を通して地域の活性化や青少年の健全育成に寄与できるよう、さまざまな年代を交えた学習機会の提供に努めます。
- ◆家庭教育の重要性を認識し、地域で子どもを育てる観点に立って、家庭教育に関する学習機会の充実に努めます。
- ◆社会教育施設や関係団体との連携を密にし、幼児期から高齢期までを含めた幅広い生活体験・自然体験活動を推進します。

ライフステージに応じた学習内容の充実

広域学習圏の形成

- ◆市町村の枠を越えて生涯学習事業に参加できるよう、広域学習圏の形成を図ります。
- ◆広域学習圏のネットワークを形成し、県全域を対象とした「県民カレッジ」の構築をめざします。
- ◆学習の機会均等を図り地域格差を縮小するため、放送大学やさまざまなメディアの活用を進めます。
- ◆あらゆる生涯学習活動を通して、地域の人々が相互のつながりを深めることができるよう創意工夫に努めます。
- ◆生涯学習に関するさまざまな団体や組織が広域的に情報を交換し、相互のつながりを強めることができるような環境整備に努めます。
- ◆より高度な学習ニーズへの対応や、施設・指導者等の広域的な活用を図るため、近隣各県とのネットワークの構築を検討します。



広域学習圏のイメージ

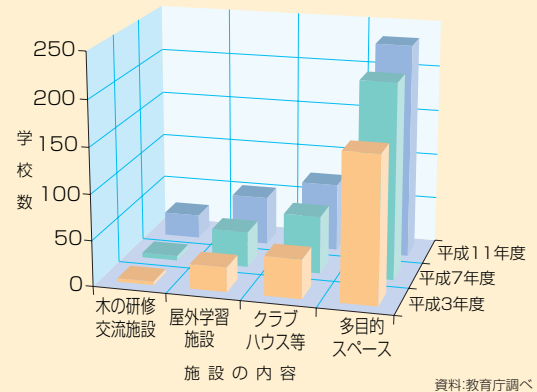


1-4-① 教育環境の整備充実

施策の基本方向

社会の変化に的確に対応しながら、児童生徒が「生きる力」を身につけその能力や可能性を伸長する教育の実現に向けて、教育環境の整備充実を図ります。

多目的スペース等特色ある施設の整備状況



施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
学校・学科の適正配置	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童生徒数の推移を見極めながら、それぞれの地域の実態に応じて適正な学校配置を促進します。 ◆充実した活力ある教育活動の実現や円滑な学校運営を図るため、高等学校については1学年4～8学級を適正として、地域の特性や通学条件等にも配慮しながら学校規模の適正化に努めます。 ◆多様な学習要望にこたえるため、単位制高校等新しいタイプの学校の配置についても十分に検討しながら、魅力と特色ある学校・学科の適正配置に努めます。
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆一人ひとりの児童生徒が、個性の伸長を図りながら将来において社会的に自己実現できるような能力の育成を目指して積極的な生徒指導を推進します。
教職員の資質能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童生徒の学習意欲を的確に引き出すとともに、社会の変化に速やかに対応できる実践的指導力を一層向上させるため、教職員研修を充実して教職員の資質向上を図ります。 ◆教育センターや養護教育センター等、研究・研修施設の整備充実を図ります。
教職員の適正配置等	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校の特色化や生徒数の減少に対応した教育の質的充実を図るため、教職員の適正配置に努めます。 ◆学校におけるきめ細かな指導により、基礎学力の向上等を図るため、学級の在り方や学級編成について検討していきます。
へき地教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆少人数学級の良さなどを生かした弾力的な教育課程の編成に努めるとともに、へき地学校に勤務する教員の指導力向上やインターネットの活用などにより、教育水準の維持・向上に努めます。 ◆へき地学校と都市部や近隣の学校との教育活動の交流に努めます。
学校施設・設備の整備充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校施設・設備の開放を進めるとともに、余裕教室の活用により多目的スペースを整備するなど、小・中学校の施設・設備の整備を促進します。 ◆校舎の大規模改造や産業教育施設の整備充実を図るとともに、高校の男女共学化や新しいタイプの定時制単位制高校等の整備に伴い必要となる施設・設備の整備を進めます。



郡山養護学校（内部）

項 目	施 策 の 方 向
教育の情報化の推進	◆個々のニーズに応じた学びの場にふさわしい盲・聾・養護学校の施設・設備の整備・充実を図ります。
安全教育の推進	◆学校体育・スポーツ活動を充実するため、学校体育施設・設備の整備に努めます。
私学の振興	◆インターネットを利用できる教育環境の整備充実や、教職員のコンピュータ活用能力の向上を図るなど、教育の情報化を推進します。
	◆児童生徒の災害・事故防止を図るため、発達段階に応じた指導の充実と安全管理の徹底に努めます。
	◆私立学校がより魅力あるものとなるよう、教育条件の整備充実を図り、学校の経営基盤の安定、教育水準の向上及び幼児・児童・生徒の保護者の経済的負担の軽減を図ります。



高校野球の応援



高校の授業（コンピュータを使った作曲）



高校の授業（特殊浴槽を使った入浴介助実習）



1-4-② 県立大学の整備充実

施策の基本方向

県立大学は、本県の人づくりの重要な基盤として大きな役割を果たしており、県民ニーズや産業技術の高度化の中で、地域の期待はますます高まっています。

このため、県立大学の教育・研究機能の一層の高度化を図るとともに、県立大学の有する専門的、多角的な知的資源をさまざまな分野で有効に活用していきます。

県立大学の運営状況

大 学 名	学 部 等	学生数	教員数	職員数
県立医科大学	医 学 部	484人	253人	216人 (附属病院を除く)
	大 学 院 医 学 研 究 科	63人		
	看 護 学 部	248人	45人	
	計	795人	298人	
会 津 大 学	コンピュータ理工学部	1070人	94人	66人
	大学院コンピュータ理工学研究科	144人		
	計	1214人	94人	
合 計		2009人	392人	282人

資料：県立大学整備室作成（平成12年5月1日現在）

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
医科大学の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆医療・保健・福祉技術の進歩などに対応するため、講座、領域、教育用設備、附属施設等教育・研究環境の整備充実を図ります。 ◆資質の高い看護専門職者及び教育・研究者を育成するため、大学院への看護学研究科設置に努めます。
会津大学の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆コンピュータ理工学分野における質の高い高等専門教育を実施するとともに、グローバル・スタンダードとなりうる最先端の研究成果を上げるため、優秀なスタッフの確保・育成やカリキュラムの改善、教育・研究環境の整備充実などを図ります。 ◆先端技術研究センターにおいて、超高速情報通信ネットワークなど情報分野における先端技術の研究を推進します。 ◆グローバルな情勢の変化に的確に対応した教育研究に取り組んでいくため、柔軟な組織体制で活動を展開していきます。
地域への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域医療水準の向上のため、医科大学の専門スタッフによる技術的指導援助を行います。 ◆医科大学附属病院を核として、高度医療技術の臨床研究を推進し、県民への高度で専門的な医療サービスの提供に努めます。 ◆民間企業等との共同研究、民間企業等からの受託研究や技術者等の受入れを推進するなど、県立大学の研究成果の民間移転や人材育成により、新産業の育成を図ります。 ◆会津大学マルチメディアセンターを産学連携の場として活用し、地域産業等の研究開発の支援に努めます。 ◆情報、医療・福祉等の分野について、ハイテクプラザ等公設試験研究機関と連携した研究開発を推進します。 ◆県立大学として地域へのさらなる貢献を図るため、それぞれの専門性を生かしながら、医科大学と会津大学との連携を強化するとともに、県内外の他大学との連携強化に努めます。
大学機能の地域開放	<ul style="list-style-type: none"> ◆県民の多様な生涯学習ニーズにこたえるため、各県立大学の専門分野を中心とした公開講座の充実を図ります。また、インターネットを利用した遠隔からの受講システムの構築についても検討します。
環境変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ◆国立大学の独立行政法人化の動向を見据えながら、県立大学の運営の在り方について調査研究を進めます。

1-4-③ 学校教育と家庭、地域社会との連携強化

施策の基本方向

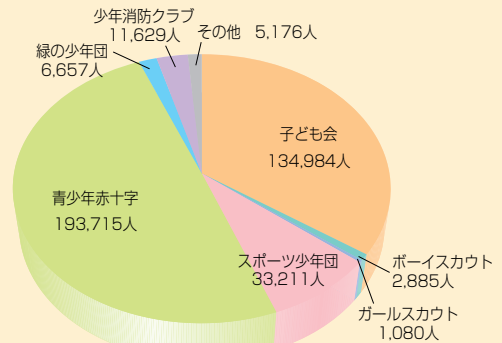
地方分権が進む中で、地域づくりへの住民の主体的な取組みが活発化しており、地域における課題や現代的課題について、身近に学習できる機会の充実が求められています。

また、少子化、核家族化の進行の中で、子どもたちが「生きる力」を身につけ、新しい時代を切り拓いていくためには、家庭の教育力の向上を図るとともに、地域社会全体での子どもの教育が一層重要となっています。

このため、活力ある社会教育活動の促進に努めるとともに、家庭、地域社会、学校が一体となった総合的な地域教育力の活性化に努めます。

さらに、完全学校週5日制の実施を踏まえて、学校教育と社会教育の一層の連携強化を図ります。

少年団体の組織状況(団員数)



資料:平成11年度社会教育統計要覧(教育庁)
(平成11年10月1日現在)

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
社会教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆住民が地域に根ざした社会参加活動を展開できるよう、学習環境の創出を支援します。 ◆地域の人材情報の収集・提供を促進し、地域の人材が幅広く活躍できる環境の整備に努めます。 ◆地域における人的ネットワークを構築し、地域の教育機能の向上を図ります。
家庭の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ◆親子が家庭の在り方を問いなおし、心のきずなを深めていけるよう、親としての自覚や子どもとのふれあいなどに関する教育機会や学習情報の提供に努めます。 ◆教育関係者に対して、家庭教育に関する専門的研修の充実強化を図るとともに、関係機関が連携しながら、親のさまざまな不安や悩みに対応できる相談体制の整備を図ります。
地域社会の教育力の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ◆家庭だけでなく、地域社会全体で子どもを教育するという観点に立って、住民の意識醸成や合意形成を図るとともに、親に対する指導助言機会の設定やさまざまな地域活動への参加促進など、家庭と地域のふれあいを深めるための環境整備に努めます。
家庭、地域社会、学校の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆家庭、地域社会及び学校が、それぞれの役割に応じた機能を十分に果たすとともに、子どもの教育に関する情報を共有するなどして連携し、ともに力を合わせて総合的な教育力を発揮することができるよう環境整備を進めます。 ◆家庭、地域社会及び学校の持つ教育機能を高めるため、広範囲にわたる教育機関と民間事業者等との有機的な結び付きを促進します。
学校教育と社会教育との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆教育内容の厳選や子どもたちの自然体験・社会体験の場や機会を増やすなど、完全学校週5日制の趣旨実現のための環境づくりに努めるとともに、学校教育における社会教育施設の利活用等、学校教育と社会教育の連携強化を促進します。



家庭の教育力の向上(家庭教育出前講座)



1-4-④ 生涯学習基盤の整備

施策の基本方向

県民の生涯学習への関心や意欲の高まりに対応し、生涯学習活動の充実を図るため、関係団体等との連携を深めながら生涯学習基盤の整備に努めます。

社会教育関係施設の設置状況

	県 合 計	備 考
公 民 館	313館	※1
図 書 館	38館	※2
視聴覚ライブラリー	25館	※1

資料：平成11年度社会教育統計要覧（教育庁）-※1
生涯学習課調べ（平成12年4月現在） -※2

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
生涯学習拠点機能の整備と活用	<ul style="list-style-type: none"> ◆指導者養成や研修機能のほか、先導的な学習プログラムの開発、調査研究、情報の提供を総合的にを行い、生涯学習活動を支援する全県的な拠点機能の整備を検討します。 ◆地域における生涯学習の拠点である公民館、図書館、自然の家などの学習環境の整備に努めます。 ◆体験学習やボランティアの実践活動の場として、アクアマリンふくしまやフォレストパークあだたらなどの活用を図ります。
関係機関・民間事業者等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆生涯学習に関する事業を実施している企業や団体、民間教育事業者、学校、行政機関等との役割分担を明確にし連携を図りながら、県民に多様な生涯学習機会を提供する体制の充実に努めます。
指導者の養成 開かれた学校づくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> ◆県民の多様な学習活動を支援するため、指導者の養成と資質の向上に努めます。 ◆地域住民の身近な施設である学校の持つ教育機能・施設の地域への開放に努めます。 ◆余裕教室を社会教育施設やスポーツ・文化施設として、地域住民の学習活動のために活用します。



アクアマリンふくしま



キャンプ場での自然体験

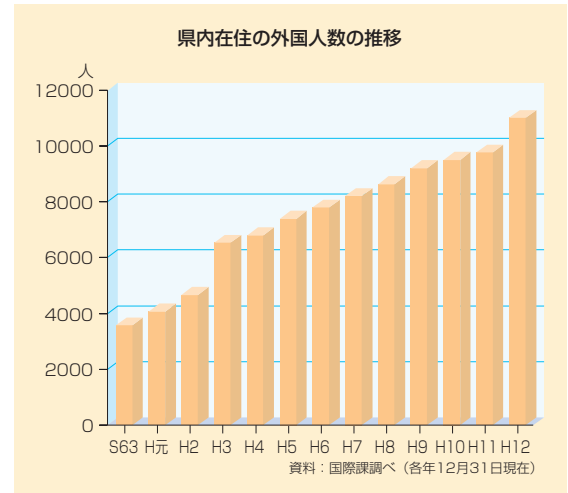


いわき海浜自然の家

1-4-⑤ 国際交流の環境整備

施策の基本方向

社会全般にわたる国際化が一層進展する中で、これまで取り組んできた国際交流活動をさらに充実させ、国際交流のさまざまな取組みが地域に根づいていくよう、国際交流推進体制の整備や外国人との共生社会の構築など国際交流の環境整備を進めます。



施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
国際交流推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆福島県国際交流協会やそのネットワークを通じ、国際交流に関する情報、人材、その他の資源を提供し、県民、市町村、団体、学校等の取組みを支援します。 ◆市町村、学校、NPO、個人等によるさまざまな国際交流活動ネットワークの形成を支援します。 ◆県の行政の国際対応力を強化し、外国語対応を推進します。
外国人との共生社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> ◆国籍による差別や偏見がなく、異なる文化が豊かに育つ社会づくりを進めるため、学校や社会における多文化教育を推進します。 ◆外国人県民が、くらしやすく、能力を十分に生かせる条件整備を進めるとともに、その多様な文化的資質を生かして社会貢献できる地域づくりを進めます。 ◆国籍を問わず、すべての県民が協力して地域づくりに参画できる社会の実現に向け、市町村等と連携を図りながら、外国人県民に対する協力ネットワークの形成に努めます。
留学生への支援	<ul style="list-style-type: none"> ◆大学や地域社会等の協力を得て、留学生の受入れ促進と留学生が学び、くらしやすい環境整備に努めます。



ゲームを通して異文化を学ぶ



外国出身女性の英会話教室

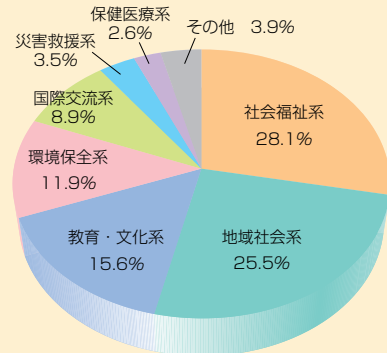


1-4-⑥ 地域づくりの担い手の育成

施策の基本方向

豊かで住みよい地域社会を創造するためには、地域の主体的・自立的な地域づくりが重要となっていることから、それぞれの地域が個性や独創性を発揮し、多様化するニーズに対応して魅力ある地域づくりを実現していくため、地域づくりの担い手の育成を推進します。

活動分野別に見た地域づくり団体の状況



資料: 地域振興課調べ(平成12年3月現在)
〔地域づくり団体データ集より〕

施策の展開

項 目	施 策 の 方 向
地域づくりを担う人づくりの支援	<ul style="list-style-type: none"> ◆視野の広い地域づくりの担い手を育成し、住民の自発的な地域づくりを支援するため、交流会を開催するなど各種交流の場づくりに努めます。 ◆積極的で的確なビジョンを持った地域リーダーを育成するため、各種研修会やセミナー等、学習・研修の機会を提供します。 ◆参加と連携による地域づくりのためには、多様な主体のつなぎ役となる専門的ノウハウを有するコーディネーターが重要であることから、地域づくりリーダー等の中からコーディネーターを養成します。 ◆新たな地域づくりへの参加を促し、積極的な活動を支援するため、インターネット等も活用して多様な情報を提供します。
人材ネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> ◆各種の地域活動に積極的に参加する多様な担い手が幅広く連携し地域づくりを進めるためのネットワークづくりを支援します。 ◆主体的なネットワークを支援するため、地域づくり団体データ集等の充実を図り、多様な情報を提供します。
自治体職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ◆ふくしま自治研修センターの研修内容が一層充実するよう支援し、地域づくりを主体的に担うことのできる県及び市町村職員の人材育成を積極的に推進します。
シンクタンクふくしまの機能充実	<ul style="list-style-type: none"> ◆各自治体が地域の実情を踏まえた魅力ある地域づくりを推進できるよう、総合的な地域政策研究機関として設立されたシンクタンクふくしまの機能充実に努めます。

シンクタンクふくしま発刊のパフレット等

地域づくりリーダーの活動



シンクタンクふくしまシンポジウム

ふくしまの明日を担う子どもたち

